

第108回 品質管理シンポジウム



産業競争力の更なる向上を狙った 品質経営活動の強化

～IoT時代における企業価値の最大化に向けた
ホワイトカラーの生産性向上のあり方～

トヨタ自動車(株)
元副社長
佐々木真二氏

清水建設(株)
代表取締役会長
宮本洋一氏

中央大学
理工学部 経営システム工学科
教授
中條武志氏

(株)麻生
代表取締役会長
麻生泰氏

(株)安川電機
代表取締役会長
津田純嗣氏

九州旅客鉄道(株)
代表取締役会長執行役員
唐池恒二氏

開催期日：2019年5月30日(木)～6月1日(土)

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

会場：大磯プリンスホテル

後援：一般社団法人 日本品質管理学会

趣旨



津田 純嗣氏

(株)安川電機
代表取締役会長

第108回品質管理シンポジウム
主担当組織委員

毎年、世界経済フォーラム（WEF）が発表する各国の国際競争力ランキング「Global Competitiveness Report 2017-2018（2017-2018 世界競争力レポート）」において、日本は2014年の6位を境に少しずつ順位を下げ、2017年には9位となりました。その理由の一つとして「イノベーション」、特に「イノベーション能力」の不足が挙げられています。

さらに労働生産性については、長年にわたり19位～21位（OECD加盟35カ国中）と停滞を続けています。その要因は、付加価値の高い新たなビジネスモデルを生み出すイノベーションが不足していることが考えられます。今後の産業競争力は、その国のイノベーションを起こせるポテンシャルにかかっており、日本がグローバル経済を牽引するためには、画期的な新製品やサービスなど、新たな顧客価値を創造し、提供していかなければなりません。

一方で日本は、少子高齢化に伴う労働力人口の減少という構造的な問題を抱えており、今後、付加価値を生み出し続けるには、一人ひとりの労働生産性を向上させなければなりません。また、政府が進めている「働き方改革」の柱の一つである「長時間労働の是正」への対応についても、時間当たりの労働生産性を向上させることが必要です。

ただし、日本の製造現場は非常に効率化されており、生産性は世界的にもすでに高いレベルにあります。しかしながらホワイトカラー（間接スタッフ）の生産性については、そもそも生産性を計

る指標も明確に決まったものがなく、何をもちて労働生産性が向上したかという点が見えづらいため、改善のPDCAをまわしにくく、各企業とも抜本的な対策に辿り着いていない状況にあると思われます。つまりホワイトカラー（間接スタッフ）の労働生産性には改善の余地が残されているのです。

イノベーションを起こすためには、特にホワイトカラー（間接スタッフ）の低付加価値業務を削減、若しくは効率化し、それによって生み出した工数を顧客価値創造のための高付加価値業務へとシフトさせること、また、業務遂行能力を上げるための教育や自己啓発などに当て、さらに付加価値の高い業務への対応が可能となるように環境を整えることが重要です。RPA*などの業務効率化ツールの活用が拡大しているのも、このことへの認識が進んで来たと思われまます。

今後顧客ニーズもますます多様化する状況の中で、より付加価値の高い業務、つまり顧客に対して真の価値を提供する業務に集中できる環境をつくり、併せて従業員のやる気や働き甲斐も向上させなければなりません。

今回は、日本の産業競争力向上を目指し、顧客価値創造活動を加速させるため、一人ひとりの労働生産性を向上させつつ、併せて働き甲斐のある職場、組織をつくるためにどうすれば良いかを皆さんと一緒に議論したいと思います。

*RPA…Robotic Process Automation

プログラム

開催期日：2019年5月30日（木）～6月1日（土）

会場：大磯プリンスホテル

月日	時間	科目	講演者
5/30 (木)	19:30～20:30	<特別講演1> 麻生飯塚病院におけるTQMの挑戦 ～ESを起点とした明るい病院改革～	麻生 泰氏 (株)麻生 代表取締役会長 麻生セメント(株) 代表取締役会長 (一社)九州経済連合会 会長
	20:30～21:00	質疑・応答	
	21:00～22:00	GDメンバー自己紹介	
	22:00～23:00	談話室（QCバー）（自由参加）	
5/31 (金)	8:30～8:40	主催者挨拶、オリエンテーション	(一財)日本科学技術連盟 専務理事 中島 宣彦
	8:40～9:30	<講演1> 仕事全体が見える化し 分析し 改善する ～ホワイトカラーの業務改善K30活動の取組み～	津田 純嗣氏 (株)安川電機 代表取締役会長
	9:30～9:50	質疑・応答	
	9:50～10:40	<基調講演> 自工程完結によるホワイトカラー業務の質向上 ～より高度な業務へのチャレンジを可能に～	佐々木 真一氏 トヨタ自動車(株) 元副社長
	10:40～11:00	質疑・応答	
	11:00～11:10	休憩	
	11:10～12:00	<講演2> 産業競争力のさらなる向上を目指したTQMの強化 ～グローバル企業経営におけるTQMの役割と活用～	中條 武志氏 中央大学理工学部 経営システム工学科 教授
	12:00～12:20	質疑・応答	
	12:20～13:10	昼食・休憩	
	13:10～14:20	<特別講演2> 夢みる力が「気」をつくる	唐池 恒二氏 九州旅客鉄道(株) 代表取締役会長執行役員
	14:20～14:40	質疑・応答	
	14:40～14:50	休憩	
	14:50～15:40	<講演3> 組織の経営基盤を確立する人材改革 ～最適品質を創出する人づくり～	宮本 洋一氏 清水建設(株) 代表取締役会長
	15:40～16:00	質疑・応答	
16:00～16:10	GDの主旨説明	津田 純嗣氏	
16:10～16:35	休憩・移動		
16:35～18:00	GD（1）		
18:00～19:00	夕食（立食パーティー）		
19:10～21:00	GD（2）		
21:00～23:00	談話室（QCバー）（自由参加）		
6/1 (土)	8:30～9:50	GD報告（10分×7班 ※予備10分）	オーナー：津田 純嗣氏 司会：加藤 雄一郎氏 (株)ブランドデザイン 代表取締役 元 厚生労働省所管 職業能力開発総合大学校 教授 報告：各班リーダー
	9:50～10:05	休憩	
	10:05～11:35	総合討論	
	11:35～11:45	第108回 品質管理シンポジウム まとめ	津田 純嗣氏
	11:45～12:00	次回（109回）品質管理シンポジウム案内	佐々木 真一 (一財)日本科学技術連盟 理事長 109QCS主担当
12:00～	昼食・解散		

※GD：グループ討論の略称。 ※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。 ※組織名・役職は、2019年4月22日時点の表記になっております。

第108回 品質管理シンポジウム 講演概要

5/30 (木) 特別講演 1

麻生飯塚病院におけるTQMの挑戦 ～ESを起点とした明るい病院改革～

麻生 泰氏 (株)麻生 代表取締役会長
麻生セメント(株) 代表取締役会長
(一社)九州経済連合会 会長



日本の病院には多くの改善の伸びしろがある。
① 日本人が得意なチームワーク活用の改善活動文化が労働集約型の病院に活用されていない。
② 病院には公立が多く有り、そこには改善意識やインセンティブが著しく低い。
③ 階級社会の様な文化が有る中で医師が改善への参加度が低い。院内の過半数は看護師で女性特有のコスト意識が高く、改善意欲も高い。働き方改革にも繋がる。
④ 待ち時間は各所で長く、改善余地とそこからの効果大きい。
⑤ 今後、AIやIoTが医療マネージメントに導入される中、改善文化とリンクしていく事で明るい病院改革が拡大していく事を目指して活動していきたい。

5/31 (金) 基調講演

自工程完結によるホワイトカラー業務の質向上 ～より高度な業務へのチャレンジを可能に～

佐々木 眞一氏 トヨタ自動車(株) 元副社長

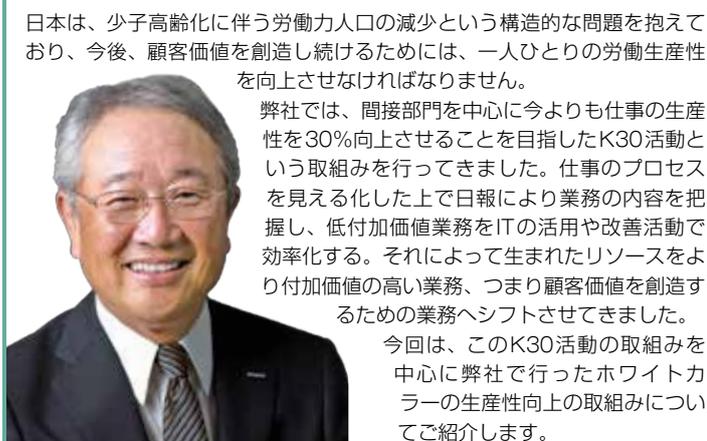


日本のホワイトカラーの仕事に対する価値観は、高度成長期までは高い品質の製品サービスを造り出す為に組織全体が精緻にシステム化され円滑に運用されるよう、時には過剰とも思われる多くの資料を作成し、何度も根回しをしたうえで部門間の調整を行うことでした。その為に少々意思決定が遅くなることがあっても、情報化、IT化以前の社会、経営環境では、大きな問題にはなりません。その後起こったIT化の急速な進展は、お客様の価値観の多様化と変化の速さをもたらしました。経営判断、意志決定の遅れが産業競争力の低下となって表れるのに時は要しませんでした。自動車産業にも待たなしの対応が必要となっています。精緻なシステムの構築運用という強味を活しつつ、それに費していた過剰な手間を徹底的に削ぎ落とすトヨタのチャレンジを紹介します。

5/31 (金) 講演 1

仕事全体を見える化し 分析し 改善する ～ホワイトカラーの業務改善K30活動の取組み～

津田 純嗣氏 (株)安川電機 代表取締役会長



日本は、少子高齢化に伴う労働力人口の減少という構造的な問題を抱えており、今後、顧客価値を創造し続けるためには、一人ひとりの労働生産性を向上させなければなりません。
弊社では、間接部門を中心に今よりも仕事の生産性を30%向上させることを目指したK30活動という取組みを行ってきました。仕事のプロセスを見える化した上で日報により業務の内容を把握し、低付加価値業務をITの活用や改善活動で効率化する。それによって生まれたリソースをより付加価値の高い業務、つまり顧客価値を創造するための業務へシフトさせてきました。
今回は、このK30活動の取組みを中心に弊社で行ったホワイトカラーの生産性向上の取組みについてご紹介します。

5/31 (金) 講演 2

産業競争力のさらなる向上を目指したTQMの強化 ～グローバル企業経営におけるTQMの役割と活用～

中條 武志氏 中央大学理工学部経営システム工学科 教授



ホワイトカラーの生産性向上を図る場合、開発、営業、サービス、管理・間接などの職場における改善活動をいかに活性化させるかが大きなポイントとなる。日本においては、製造職場におけるQCサークル活動が改善活動および職場の活性化において重要な役割を果たしてきたが、その成功がかえって他の職場への普及・展開を阻んできたところも少なくない。他方、海外の企業や組織においては、多種多様な職場で改善活動が実践され、産業競争力の向上や社会の発展に大きく貢献している。本講演では、このような課題に対して日本の先進企業で実践されている事例、海外の企業・組織で実践されている事例を紹介し、TQMの強化に向けてどう取り組むのがよいのか、グローバル化が進む企業経営においてTQMの役割と活用をどう考えるのがよいのかについて論じる。

5/31 (金) 特別講演 2

夢みる力が「気」をつくる

唐池 恒二氏 九州旅客鉄道(株) 代表取締役会長執行役員

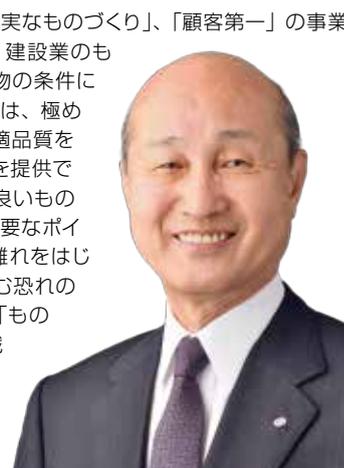


JR九州の歴史は逆境から立ち上がった歴史ともいえる。国鉄分割民営化後、当社は厳しい経営環境や度重なる自然災害など数多の困難を乗り越え会社も社員も強くなってきた。原動力のひとつは、夢みる力が生み出す「気」であると考えて。「気」は、価値を創造し感動のエネルギーへと変化する。乗車されるお客さまのみならず、沿線の皆さまの心までも動かす「なまつ星九州」は好例である。
新たな事業への挑戦、様々なプロジェクト完遂までのエピソードを交えながら、私の信じる「気」についてお話をさせていただき、人を動かし組織や地域を活性化させるためにはどうすべきか皆さまと考えていきたい。

5/31 (金) 講演 3

組織の経営基盤を確立する人材改革 ～最適品質を創出する人づくり～

宮本 洋一氏 清水建設(株) 代表取締役会長



清水建設は1804年の創業以来、「誠実なものづくり」、「顧客第一」の事業姿勢を一貫して大切にしてきました。建設業のものづくりは一品生産で、敷地や建設物の条件によって異なり、同じものをつくることは、極めて稀です。そのような中でも常に最適品質を追求し、お客様の期待を超える価値を提供できるものづくりを目指しています。「良いものをつくる」ためには「人づくり」が重要なポイントです。今般、若者のものづくり離れをはじめとして、ものづくりの空洞化が進む恐れのあるなかで、「人づくり」を通じて、「ものづくりの心と技を傳承し、新たな挑戦を続ける」ということについてお話ししたいと思います。

108QCSグループ討論

テーマ・趣旨・論点

第1班	<p>「ホワイトカラーの生産性向上に向けたトップの役割とあり方」 ■リーダー：山田 秀 (慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 教授)・榊原 勝彦 (トヨタ自動車㈱ カスタマーファースト推進本部 監査改良領域 業務品質改善部 第2TQM室 主査)</p> <p>趣旨 ホワイトカラーの仕事は、仕事の見える化が困難になりがちのため、属人化しており、また、生産性が低いことすら見えていないことが多くあります。このような場合には、より広い視野から、プロセスを可視化し生産性の向上を図る必要がありますが、プロセスに従事する人の多くはその必要性に気が付きません。このように硬直化した組織を活性化するには、トップが生産性向上に対する強い意志を持ち、それを全社員へ伝達する必要があります。また、生産性向上に向けたどのプロセスを改革するのか、改革の進捗に応じてどのように支援をするのか、改革をなす土壌をどのように確保するかなど、様々な点でのかし取りが必要になります。第1班では、そのためのトップの役割を議論します。</p> <p>論点 ①生産性向上が必要となるプロセス、機能を明確化するために、トップが考慮すべき行動指針は何か。 ②生産性向上の具現化は、どのような能力を持つ人に任せるか、また、どのような組織形態、仕組にするのが良いか。 ③プロセスの改革が進むように、ホワイトカラーの意識を改革し、文化を醸成するためのトップの役割は何か。</p>
第2班	<p>「生産現場の間接部門の生産性指標とその生産性をどう上げるかについて考える」 ■リーダー：鈴木 知道 (東京理科大学 理工学部 経営工学科 教授)・向井 正人 ((同) Masatoko-QMS 代表)</p> <p>趣旨 製造部門の中には、計画、業務、調達、生産技術等の間接部門が存在します。ビッグデータやIoT、AIなどの活用が促進されてきている現在、製造間接部門の仕事の進め方や働き方が劇的に変わると予想されます。そういった中で製造間接部門の業務の見える化を進め、いかに業務改善サイクルを構築するかを、国内だけでなく海外との違いからのアプローチも交えながら議論します。一方、自分たちのお客様が誰かが見えない職場には、目的意識は芽生えてこないものです。自分たちの前後工程をお客様と考えて、そのお客様の満足度を組織の指標にする、すなわち、誰から仕事を受け取って、誰に成果を伝えるかを考えれば、目的は明確になり、結果として「生産性の向上」だけでなく「働きがい」の向上にもつながると考えます。第2班はそのような切り口を含め改善のための議論を進めます。</p> <p>論点 ①製造間接部門において、見える化が不十分で、効率化にスポットが当たっていない部門はどこか。そしてそれらの部門における現状の問題点は何か。 ②議論の対象として選定された部門に対し、その部門における生産性の指標はどう定めるか。また、製造間接部門としての統括指標は考えられるか。 ③各部門の見える化と業務効率向上に向けた施策としてどのようなものが考えられるか。各企業におけるビッグデータやIoT、AIなどの活用事例も踏まえ深堀を試みる。</p>
第3班	<p>「営業現場の生産性指標とその生産性をどう上げるかについて考える」 ■リーダー：森田 浩 (大阪大学 情報科学研究科 教授)・鈴木 直人 (日野自動車㈱ TQM推進部 主査)</p> <p>趣旨 営業の業務は生産性という概念には当てはめにくい感じがしますが、無駄な動きを可能な限り減らし効率よく成果（販売数量や受注数量など）につなげるという意味では、営業活動でも生産性向上は大切です。では営業活動において、顧客価値を最大化しつつ効率性を上げ、生産性の向上につなげるには具体的にどうすればいいでしょうか。さまざまな業種や事業形態・事業領域（事例があれば海外も含め）の会社にお集まりいただき、現状をお互いに披露し合い違いも踏まえながら議論します。</p> <p>論点 ①営業活動において生産性を阻害している「非効率な活動」にはどのようなものがあるか。 ②「非効率な活動」はなぜ発生しているか、これを削減するにはどうすればよいか。 ③効率性の向上で得たリソースは、どう活かせば成果（販売数量や受注数量など）の向上に結びつけられるか。</p>
第4班	<p>「設計・開発部門の生産性指標とその生産性をどう上げるかを考える」 ■リーダー：光藤 義郎 (文化学園大学 生産工学研究室 特任教授)・遠藤 秀信 (リコーテクノロジーズ㈱ 代表取締役 社長執行役員)</p> <p>趣旨 新技術・新製品開発によって新しい価値を創造する活動へのニーズは益々高まり、設計・開発プロセスのQCD確保がグローバルレベルで大きな競争要因となっています。必然、設計・開発プロセスに対して改善サイクルをスピーディーに回していくことが多くの企業にとって喫緊の課題となっており、中でも設計・開発プロセスの見える化がそのカギを握っています。そこで、本班では、製造プロセスに比べ、定型化しにくいと言われる設計・開発プロセスに対し、これをどう見える化・指標化し、生産性向上につなげるか。国内だけでなく海外の事例も参考にしながら議論をしていきます。</p> <p>論点 ①設計・開発プロセスは見えるようになってきているか。 ②見えないとすると、それはなぜか。 ③見えるようにするにはどうしたらよいか。 ④見える化した上で、効率的な設計・開発プロセスや仕組みとはどのようなものが考えられるか。</p>
第5班	<p>「本社の管理部門（事業支援機能等）とそのスタッフの、パフォーマンス指標およびその向上について考える」 ■リーダー：松田 啓寿 (松田技術士事務所 代表)・江間 富世 (パナソニック㈱ 品質・環境本部 安全・品質部 品質企画課 課長)</p> <p>趣旨 製品実現に直接は携わらない「本社の管理部門（とそのスタッフ）」は、業務の範囲/優先度が見えづらく、また取組み効果がわかりづらいため、とかくスリム化が要望されています。一方、より顧客の近くで共創に取り組んでいる事業部門の支援や、益々重視される社会的責任遂行のため、本社機能の発揮・対応が求められています。グローバル経営の中でガバナンスの維持・強化とグループ戦略実現にどのようにかわるか、国内外のアプローチについて議論します。</p> <p>論点 ①品質を通して社会に貢献することを意図して、グローバル展開するグループ経営における、本社機能（それらを担うスタッフ）の代表的な業務内容について、そのインプットとアウトプットは何か。 ②本社機能（それらを担うスタッフ）のパフォーマンスとは何か。パフォーマンスを上げるための工夫・指標は何か。例えばパフォーマンスの低い業務とは何か。その要因は何か。 ③上記をふまえて、グループ戦略実現のために、本社機能（それらを担うスタッフ）がとりえる方策と知恵、その効果とは何か。</p>
第6班	<p>「生産性向上活動を持続的に発展させるための人材育成を考える」 ■リーダー：金子 雅明 (東海大学 情報通信学部 経営システム工学科 准教授)・佐藤 真人 (㈱小松製作所 コマツウェイ総合研修センタ 所長)</p> <p>趣旨 生産性向上活動を進める中では、自らの業務内容を否定されたり、削減対象になったりすると、職場から反発を招いたり痛みを伴ったりするケースが発生する可能性があります。こういった中で、活動を常に活性化させ持続的に改善するためには、従業員に改革意識を植え付け、必要な能力・スキルを習得させ、企業として継続的に取組みを行えるような状態にする必要があります。このような人材育成をどう進めるか、国内だけでなく、グローバルな視点で議論を進めていきます。</p> <p>論点 ①人材育成に求められる機能、役割は何であるか。 ②人材育成の推進（生産性）指標とその測定方法は何か。 ③人材育成を活性化するための仕組み・施策として何が必要か。</p>
第7班	<p>「生産性向上のための働き方改革を労働環境整備や制度改革から考える」 ■リーダー：楳近 雅彦 (早稲田大学 理工学術院 教授)・荻島 賢一 (コニカミノルタ㈱ 品質本部 品質保証企画部 部長)</p> <p>趣旨 日本の労働環境には、昨今話題になっている長時間労働の問題や「正規社員」・「派遣社員」という2つの働き方の不合理な処遇の差、子育てや介護等との両立など様々な問題があります。これらの問題は、働き方や人材、考え方の多様化に十分対応できず、適正な労働環境や制度での運用がなされていないことが要因の一つと考えられます。これらを早急に改善し、いかに多様性に対応した労働環境に変えていくか、単なる効率化だけでなく、仕事全体のクオリティを向上させ、アウトプットの質も上げるにはどのように労働環境や制度を改革すればいいか。国内だけでなくグローバルな視点で議論を進めていきます。</p> <p>論点 ①働き方改革の施策（政府が示す施策：長時間労働の是正、外国人材の受入等）は、生産性向上に有効か。 ②働きがいを向上させるには、どのような施策が有効か。 ③生産性、働きがいをどのように測定すればよいか。 ④TQMの人間性尊重のフィロソフィーに基づく方法論は、この問題に有効か。</p>

※各班25名～30名を定員としております。先着順となりますので、第1希望の班が定員に達した場合、第2希望とさせていただきます。ご了承ください。
 ※組織名・役職は、2019年4月22日時点の表記となっております。

参加要領

開催日時 **2019年5月30日(木) 19:30~6月1日(土) 12:00**
(5月30日受付開始17:00~、夕食18:00~)

会場 **大磯プリンスホテル**
〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷546
TEL: 0463-61-1111 FAX: 0463-61-6281

参加対象 企業の役員、上級管理職の方々

※是非、今回のシンポジウムテーマ・グループ討論に深い関連のある、本社管理部門、製造間接部門、営業部門、設計開発部門の方々のご参加についても、ご検討をお願いします。

※参加受付は、QCS会員のみとさせていただきます。

参加費(税抜き)

●QCS企業会員

・ トップ枠(会長もしくは社長)、通常枠 各1名無料

・ 3人目から40,000円/1名

※ トップ(会長もしくは社長)が参加されない場合は、無料参加枠は通常枠の1名のみとなります。

●QCS団体会員

・ 通常枠 1名無料

・ 2人目から40,000円/1名

※食事代(5月30日夕、5月31日朝・昼・夕、6月1日朝・昼)は参加費・宿泊費に含まれています。尚、宿泊費、交通費はご負担ください。

※大磯プリンスホテルは全館禁煙です。喫煙禁止場所(各居室等)での喫煙が確認された場合、50,000円のクリーニング代を請求いたします。(電子タバコも禁止です)

■申込期日 第一次〆切を4月15日(月)とさせていただきます。

今回のシンポジウムは、多くの会員企業様にご参加いただくことを目的に、第一次〆切までは、1社2名(トップ枠、通常枠の無料枠含む)までとさせていただきます。第一次〆切後は、先着順でお申し込みを受け付けます。会場定員に達し次第、申込を締切らせていただきます。



会場：大磯プリンスホテル

シンポジウム申込方法

QCS専用Webサイトからお申し込みください。

<http://www.juse.jp/qcs/>

最近の主な講演者

(組織名・役職は講演当時の表記になっております)



第107回
コニカミノルタ(株)
代表執行役社長 兼 CEO
山名 昌衛 氏



第106回
(株)日立製作所
取締役 代表執行役 執行役社長 兼 CEO
東原 敏昭 氏



第105回
マツダ(株)
代表取締役会長
金井 誠太 氏



第103回
トヨタ自動車(株)
取締役社長
豊田 章男 氏



第101回
エリーパワー(株)
代表取締役社長
吉田 博一 氏



第100回
トヨタ自動車(株)
名誉会長
豊田 章一郎 氏

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略) ※◎は第108回品質管理シンポジウム主担当組織委員

(組織名・役職は2019年3月11日時点の表記になっております)



猪原 正守
大阪電気通信大学 教授



大橋 徹二
(株)小松製作所
代表取締役会長



佐藤 和弘
トヨタ自動車(株)
カスタマーファースト推進本部 本部長
Global Chief Quality Officer 執行役員



鈴木 和幸
電気通信大学名誉教授



◎津田 純嗣
(株)安川電機
代表取締役会長



中條 武志
中央大学 教授

〔確認ください!〕第108回品質管理シンポジウム参加予定の方へ

今回のシンポジウムでは、より効果的な議論を行うため、参加いただく皆様と以下の通り用語（言葉）の定義と考え方を共有した上で進めて参ります。

■ホワイテカラー…仕事の見える化ができておらず、生産性を測ることが困難な職種

■生産性…効果×効率

⇒効率よく効果（顧客価値）を生み出すこと。

■品質…顧客及び社会のニーズを満たす度合い

■品質保証…顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動

⇒「品質」は、モノの出来栄のことではない。

■サービス・ドミナント・ロジック…価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる

※顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない

■グッズ・ドミナント・ロジック…価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている

※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する

⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何ができれば喜ぶのか?」という着眼点で考える。

品質管理シンポジウム会員にご入会ください! QCSは会員のみが参加できるシンポジウムです

メリット1 講演（トップランナー企業）から、TQMの推進・動機づけに役立つ情報が得られます。

メリット2 グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。

メリット3 参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員：1口につき年額174,000円（税抜き） 団体会員：1口につき年額100,000円（税抜き）

入会いただきますと

●企業会員：無料参加枠2名（トップ枠・通常枠）を確保できます。

●団体会員：無料参加枠1名（通常枠）を確保できます。

●無料参加枠以外の方は特別価格（40,000円・税抜き）でご参加いただけます。

●本シンポジウムの発表報文集・実施報告が無料で入手できます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS独自の会員制度です。ご入会は、随時受付しております。

品質管理シンポジウム 会員企業・団体

※2019年4月現在、50音順 119社

1 ㈱アーレスティ	25 コーセル㈱	49 ダイキン工業㈱	73 豊田バンモップス㈱	97 フジミ工研㈱
2 アイシン・エイ・ダブリュ㈱	26 小島プレス工業㈱	50 ㈱大広	74 トヨタ紡織㈱	98 フタバ産業㈱
3 アイシン・エイ・ダブリュ工業㈱	27 コニカミノルタ㈱	51 ダイハツ工業㈱	75 トヨタホーム㈱	99 ㈱プリチストン
4 アイシン機工㈱	28 ㈱小松製作所	52 大豊精機㈱	76 長津工業㈱	100 ぺんてる㈱
5 アイシン軽金属㈱	29 ㈱コロナ	53 ダイヤモンド電機㈱	77 新潟ダイヤモンド電子㈱	101 ㈱保志
6 アイシン精機㈱	30 サラヤ㈱	54 大和リース㈱	78 ㈱ニコソ	102 本田技研工業㈱
7 愛知製鋼㈱	31 澤藤電機㈱	55 ㈱竹中工務店	79 日華化学㈱	103 前田建設工業㈱
8 アイホン㈱	32 サンデンシステムエンジニアリング㈱	56 中国化薬㈱	80 ㈱日科技連出版社	104 ㈱前田製作所
9 ㈱麻生	33 サンデンホールディングス㈱	57 ㈱千代田グラビヤ	81 日産自動車㈱	105 マツダ㈱
10 ㈱アドヴィックス	34 ㈱三和	58 テックスエンジニアリング㈱	82 日産車体㈱	106 ㈱マルヤスエンジニアリング
11 ㈱イシダ	35 ㈱シーヴィテック	59 ㈱デンソー	83 日本商工会議所	107 丸和電子化学㈱
12 ㈱イトーキ	36 ㈱GSユアサ	60 ㈱東海理化電機製作所	84 日本電気㈱	108 三島食品㈱
13 NECプラットフォームズ㈱	37 ㈱ジーシー	61 東芝機械㈱	85 ㈱日本科学技術研修所	109 ㈱村田製作所
14 ㈱FTS	38 ㈱ジーシーデンタルプロダクツ	62 東レ㈱	86 日本特殊陶業㈱	110 ㈱メイドー
15 ㈱MCシステムズ	39 JFEスチール㈱	63 TOTO㈱	87 パナソニック㈱	111 名北工業㈱
16 エリーパワー㈱	40 ㈱ジェイテクト	64 トクラス㈱	88 パナック㈱	112 安川エンジニアリング㈱
17 大塚化学㈱	41 清水建設㈱	65 (一社)富山県経営者協会	89 ㈱羽生田製作所	113 ㈱安川電機
18 岡谷電機産業㈱	42 JUKI㈱	66 トヨタ自動車㈱	90 パラマウントベッド㈱	114 ㈱ユニバンス
19 ㈱オティックス	43 シロキ工業㈱	67 トヨタ自動車九州㈱	91 日立オートモティブシステムズ㈱	115 ㈱リコー
20 オムロン㈱	44 ㈱SUBARU	68 トヨタ自動車東日本㈱	92 日野自動車㈱	116 リコーエレメックス㈱
21 鹿島建設㈱	45 住友理工㈱	69 トヨタ自動車北海道㈱	93 ヒロセ電機㈱	117 リコーテクノロジーズ㈱
22 関西電力㈱	46 積水化学工業㈱	70 ㈱豊田自動織機	94 ㈱フジクラ	118 ㈱良品計画
23 ㈱キャタラー	47 ㈱セキソー	71 トヨタ車体㈱	95 富士ゼロックス㈱	119 ローム㈱
24 光洋サーモシステム㈱	48 ソニーセミコンダクタソリューションズ㈱	72 豊田鉄工㈱	96 富士電機㈱	

問い合わせ

一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当（安随／糸柳／池田／菅田／渡邊）

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL：03-5378-1215

FAX：03-5378-9842

E-mail：tqmsemi@juse.or.jp